

三角形(人間)は  
円(完全な者)ではない

住 聖

戦後から今日まで約七十年、日本は高度な経済成長を目指して進んできました。その結果、「人の心」よりも「物」を大切にする社会になってしまった。本来は心が物を動かすはずなのに、物によって人の心が左右されている現状は正常な状態とは言えないでしょう。

「衣食足つて、礼節を知る」いうことも事実ですが、「衣食足つて、人間との絆を捨てる」のも現実です。また、物が豊富になりすぎると、物に対して有り難いと感謝する心が薄くなつたように感じているのは、私だけでしょうか。

私たちは、損・得、好き・嫌い、役に立つ・立たない、さらに世間の眼などを、行動の基準にして生活しております。物が少ない状況では、物を大切に使わないと損をする。だから儉約し粗末にしない。逆に、物が豊富な場合はそんなことをしなくてもよいという考え方になつてしまつ。さらに、人と人との絆も、関わり合いを持たなくとも生活



できるようになったから、「わざらわしいから」を理由にして、人との関わり合いを避けるようになる。これにインターネットの影響も加わり、人々の孤立はますます進む傾向にあるように思われます。人と交わらないと人間としての成長はありません。人に育てられてはじめて人間になれるのが世のならいです。

善意で他人が注意してくれても、「あんたには関係ない、ほつといてくれ」の気持ちになる。「そういうあんたはどうなんだ。他人のことが言えるのか」などと、相手を非難する。「自分は悪くない。私のしていることは間違いない」と思い込んでいるからです。自分が「完全な者」ではないのに、相手に「完全さ」を求めてしまう。このような世の中はどこか変です。みんなが望んでいる社会ではありません。

蓮如上人は、廊下に紙切れが落ちているのを見つけられて、「仏さまの世界の大重要な物を粗末にしてはならない」と拾い上げていただかれていたとお弟子が伝えてています。

西田幾多郎という世界的な哲学者がいました。その人の言葉に「人間には智者もあり、愚者もあり、徳者もあり不徳者もある。しかし、いかに大なるとも人間の智は人間の智であり、人間の徳は人間の徳である。三角形の辺はいかに長くとも総ての角の和が二直角（一八〇度）に等しいというには何の変りもなかろう」というのがあります。

いかに優れた人でも三角形は三角形です。円（三六〇度）には、なれていません。「三角形」とは人間、「円」とは完全な者・仏をさしています。それにもかかわらず、私たちは、自分が円（完全な者）になっているつもりで、判断し、行動し、生活してはいないだろうか。

邪見と驕慢の角をもつて、傲慢な生活をしている事実を私に教え、私たちの本性と人生の苦悩のすべて知りつくした上で、「引き受けるぞ、捨てはしないぞ」と、呼び続けてくださる阿弥陀さまの仰せを、生活の基準にすることこそ肝心です。

# もうひとつの大谷探検隊

副 住職

先日、本願寺の正面にある龍谷ミュージアムで開かれていた「チベットの仏教世界・もうひとつの大谷探検隊」を見てきました。

みなさんは多田等觀という方のことを聞いたことがあるでしょうか？明治時代に鎖国中のチベットに入り十年間も学問僧として暮らした人です。秋田県の本願寺派西船寺の三男として生まれ、二十歳の時に進学のため京都に行くのですが、そこで人生を変えるような出逢いをします。当時の本願寺門主、大谷光瑞師です。ちょうどその頃、留学生として本願寺があずかることになつたチベット僧三人の世話係を光瑞師から仰せつかることとなり、進学もそつちのけで半年以上も彼らと寝食を共にして日本語を教え、自身はチベット語を学びました。その後、インドに来られていたダライラマ十三世とお会いし、チベットに留学する許可を直接与えられました。そしてチベットの首都ラサ近郊にあるセラ寺に入

つて厳しい学問と修行の日々を過ごすことになりました。その間に大蔵經などの膨大な仏典を集め、後に日本に持ち帰ることに成功します。しかし、今の時代のように簡単に書籍が買えるわけではありませんから、多くの苦労があったようです。

実直な人柄や勉学に励む姿が認められ、ダライラマ十三世からも信頼を得ていました。今回の展覧会の目玉ともいえる「釈尊絵伝」は等觀がダライラマ十三世から寄贈されたものです。二十五幅もある鮮明に描かれた仏画は素晴らしいものでした。

彼は十年後に日本に帰国しましたが、その時すでに光瑞師は引退し大谷探検隊も打ち切りとなっていました。チベットの僧院で学問をおさめた経験や、仏典をはじめとする数々の請来品はあまり活かされなかつたようです。



今回の展覧会を通じて改めて多田等觀という希有な学僧の存在を知ることが出来ました。

# 仏教讃歌と共に

コーラスみやび会

坊守

思いりますと私は物心つく頃、母に連れられ仏法聴聞に行つた折、そろそろ終わりに近づいたら恩徳讃を歌う時が来るのを楽しみにしていました。私の中では仏法聴聞と仏教讃歌との結びつきは其の頃からあつたように思います。

信行寺を繼いでから赤ん坊にお乳を飲ませながら本堂で法話があるたび、恩徳讃を下手なオルガン伴奏でドキドキしながら弾いたものでした。

およそ三十数年前、信行寺では仏教讃歌をうたう会を始めました。これが信行寺コーラスみやび会として活動するようになりました。今まで西本願寺や法話会で、大変美しい言葉とメロディーの仏教讃歌を耳にしていましたので、いつか皆さんと一緒に練習をしたいと念願していました。はじめは七、八名のメンバーで月一回、テープを使用しながらの練習



昭和 58 年震災前のお寺本堂

でした。

住職が継承後、

次々お寺の行事の都度コーラス

隊の出番が増えました。内陣で

の音楽法要おつとめ、お寺での

花まつりなどに歌いました。そ

の頃から現在の

森本先生にご指

導いただいてお

ります。蓮如上人像（大震災で壊れました）の除幕式には、御揃いの立派なガウンを着て、コーラス隊が花を添えました。

平成七年一月阪神大震災で、ピアノ、テープ、楽譜などすべて焼失し、コーラスの再開はとても無理だと思つていました。ところが三ヶ月後仮設の本堂

ができた頃、リーダーの川口由子さんが録音テープと楽譜を持ってきてくださり、「練習を再開しましょう！」との強い気持ちに押され、諦めていたのを再開することができました。森本先生、メンバーのひとりひとりが今まで通り歌うことで、被災した暗い気持ちにパッと明かりがさした事を憶えています。また、メンバーの一人であります住本さんの葬儀に本人の生前の要請で「みほとけにいだかれて」を歌つて見送りました。

現在、お蔭で新しいメンバーも増え、発表の場も多くなりました。歌を通して仏法に遭わせて頂いた喜び、人間に生まれてきたことの有難さ等々、歌いながら涙が出てくることもあります。今後もこの素晴らしい讃歌を、一人でも多くの人たちに伝え続けていたらと、みやび会の発展を願うばかりです。



〔平成 26 年真宗報恩まつり〕

## 信行寺門信徒会「第 13 回定期総会」のご報告

平成 26 年 4 月 26 日、信行寺門信徒会「第 13 回定期総会」が開催されました。事業報告、会計報告など定例の議事以外で、特に今回の決定事項をご報告いたします。

### 記

1. 門信徒会に「運営委員会」を設置する。
2. 上記にともなう門信徒会規約第 9 条の変更。
3. 門信徒会の活動としてコーラスみやび会を入れる。
4. 役員改選
  - ① 新会長 久納恵弘氏
  - ② 新副会長 谷川恵美子氏
  - ③ 新役員 森本順子氏 浜尾千代子氏

尚、前会長藤本哲郎氏は、ご病気のため会長を辞し、顧問に就任されました。また、上記以外の前期役員は、全て留任されました。

## 第四十一回 親鸞聖人報恩まつり

米田 悅子

平成二十六年五月二十一日に神戸文化大ホールにて真宗各派の寺院が一つになり、親鸞聖人のみ教えを弘める式典が開催されました。

信行寺の米田睦雄住職が理事長を勤めさせて頂いております。式典に続き、ご挨拶を壇上でされました。その話の中での住職の言葉に時代を超えて伝わる親鸞さまのお心を感じました。

この度も私たち「信行寺みやび会」は、月に一度の仏教讃歌の練習を重ね、全員揃って参加させていただきました。法要を勤めさせて頂く、有り難さと大切さを新たに思いながら、私たちがこのホールで心を一つにし



ているこの瞬間がまさに報恩なのだな、と実感いたしました。

また、プログラム後半には、真城義麿師の御法話を頂き、長く教育現場に携わってこられた経験からのお話に仏教の大切さを痛感いたしました。

最後には法話コンサートとして、シンガーソングライターでもあり、お寺の住職でもあり、一児のママでもある三浦明利さんの伸びやかで清々しい歌声がホールに響きました。



時代が変わろうとも人の営みは変わりません。鎌倉時代から平成の私たちへ。このような式典を通してまた、親鸞さまのみ教えに出逢う縁をいただくことができました。来年もまた、どのような出逢いが待っていることでしょうか？ 楽しみです。

## 「てらヨガ」

### 健康で暑さも楽しく

遠藤 泰子

これからいよいよ、暑さ本番ですね。ますます、外に出かけるのもおっくう・・・。身体を動かすのはいや・・・。クーラーのきいた心地良いお部屋が最高。けれどもダイエットはしたいし、涼しげで素敵なファッショニもしたい。そう考えるのは私だけでしょうか? 夏バテもしたくない、何より健康であるために何かやってみようかなと思う方もいらっしゃると思います。

年齢に関係なくスクールに通う方も多くなりました。私もその一人ですが、毎月第①・③木曜日、信行寺の本堂にて「ヨガ」でリフレッシュしております。本格的なインドヨガではなくて、自分の健康状態と相談しながら身体のゆがみ、くせなどを調整するポーズを習っています。少人数なので井上先生の指導も細やかでおしゃべりを交えながら楽しい時間を皆様と共有しております。

継続は力なりと申しますが、積み重ねとはすごいもので、出来なかつたポーズが徐々にできるようになっていく達成感は本当に気持ちよいものです。何よりも一番は、阿弥陀様のもとでゆつたりと身体を動かして自分と向き合う空気感は何にも変え難いものです。また、いろいろな方と接して教えられる事も多く、阿弥陀様は私を守つて下さり、豊かな感性を育ててくれています。

楽しいひと時を「一緒に  
しませんか?



井上先生のご指導

## 本堂納骨お盆法要

編 集 後 記

八月十六日（土）  
午後二時より 本堂にて

### 夏期特別法座

八月十七日（日）

午前十一時から午後三時  
信行寺 本堂・礼拝堂にて

### 秋の彼岸法要

九月二十八日（土）

講師は別途ご案内

二十九日（日） 住職

両日とも二時より 本堂にて



### 西大谷納骨参拝

十月十九日（日）

バスで一緒いたしますのでご参加希望の方はお早めにお寺にお問い合わせください。

今年は梅雨に入つてもこの辺りは雨があまり降りません。  
それでも草木は青々と茂り、可憐な花を咲かせます。うぐいすやホトトギスはきれいな声でさかんに鳴いて仲間に呼びかけます。  
みんな置かれた場所で精一杯生きようとしているのに、人間だけが必要以上に環境をつくりかえ「あさましく」「傲慢」に生きて来たことを、住職がわかりやすく教えてくださいました。

多田 清子

目に青葉  
山ホトトギス  
初鯉



今年は梅雨に入つてもこの辺りは雨があまり降りません。

それでも草木は青々と茂り、可憐な花を咲かせます。うぐいすやホトトギスはきれいな声でさかんに鳴いて仲間に呼びかけます。

みんな置かれた場所で精一杯生きようとしているのに、人間だけが必要以上に環境をつくりかえ「あさましく」「傲慢」に生きて来たことを、住職がわかりやすく教えてくださいました。

今こそ阿弥陀様のみ教えがこの世を救うと痛感いたします。そしてこのような煩悩だらけの私たちを阿弥陀様はお捨てにならずいつも見守っています。